

解答

一

問一 1 ア 2 エ 3 ウ

問二 イ

問三 森の中(にいる私がそこを)川の底(川の中)のよう(に)感じて、(銀色の)シジミチヨウ(を)小さな魚(のようだと思つたこと)。

問四 1 兄さんはわたしの帯にひもをつけ、長くのばしておぐにはいり、ひもをひっぱる」とでお互いにあいすを送ることができる(という仕組み)。 2 ハ

問五 1 戰争がはげしくなり、男の人は徵兵されて亡くなってしまった(といふこと)。 2 イ、カ

問六 大声をあげ

問七 1 (ユキコボシは)土と一緒にていねいに掘りおこし、そっと運んできても根づかずに枯れてしまう(という経験)。 2 そして、ユ

問八 森のしづけさ、しつとりした空気、あのみどり色の川底のようななしめり(のあるところ)

問九 団

二

問一 千…ひ(からびた) ヨハク…余白 ゲンセ…現世 ケントウ…見当 ヨウリョウ…要領

カイコ…蚕

問二 a イ b ア

問三 1 オ 2 ア

問四 萩虫自身は

問五 昨日の哲学

問六 ウ

問七 ウ、オ

問八 1 イ 2 エ

問九 ア ウ、エ

解説

一

問五 1 ——③の少し前にある、「それからいくさが」で始まる一文の内容を踏まえて考えます。兄さんも、その友だちも帰らなかつたといふ内容から、戦争がはげしさを増し、兄も友だちも兵隊として戦地へ赴き、命を落としたことがわかります。2 兄さんたちが戦死したことに対する気持ちとしてふさわしいものを選びます。すると、嘆き、怒りを表す選択肢イの「いきどおり」と、くやしさを表す選択肢カの「無念さ」があてはまります。

問九 1 ——⑥にある「ちょっとふくれて」に着目します。わたしがユキコボシを持ち帰ろうとして兄にとめられ、不満を抱えている描写はウの場面にあります。

二

問五 「昔の学者などの中には」で始まる段落に着目すると、「そんな人は、わきめにはこの萩虫と変わったところはなかつたかもしれない。」といふ記述があり、萩虫を「昔の学者」のようだと感じて「小哲学者」にたとえていることがわかります。そこで、「ただ萩虫どちがうのは」で始まる一文の内容が「小哲学者」においてはならないことがわかり、選択肢ウが選べます。

問十 「詩的」という表現に着目しながら考えると、歳時記に出てきた現代人の思いもつかないような考え方をしている選択肢ウ、エがあてはまります。選択肢ア、イ、オ、カの内容は筆者の説明する萩虫の姿を表しています。